平成17年2月25日

株式会社トモグリーン・ケミカル

ホームページアドレス
http://www.tomo-green.com/

第７４号

3月・4月の管理ポイント

寒い冬も終り、３月は萌芽が始まります。また、３月５日は啓蟄(けいちつ)で暦のうえでは虫も動き出します。春先の管理が今年１年の状態を左右します。しっかりとした根をつくっていきましょう。

プライマーセレクト

春先の灌漑管理が重要です…

春の水管理が芝生の根をしっかり伸ばすポイントです!!
グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え下層にある水分まで伸ばさせます。
プライマーセレクトによりマトリックスフローを形成した土壌では、表層を乾燥状態にしても、一度の潅水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして頂けます。
散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に充分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。
使用量：1～2ml/㎡　散布水量：200ml～1L/㎡　散布回数：1ヶ月～1ヶ月半に1回

サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には…

3月、4月の更新作業時に処理することにより、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。
他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素を主体としているので土壌中でも安定して働きます。
従って農薬類の混用や近接散布が可能です。
使用量：1～2ｇ/㎡　0.5L/㎡散布　使用回数：月1～2回

ダイアジノンSLゾル・ブイボン乳剤

休眠明けの害虫防除には…

3月は、越冬した虫が眼を覚ます時期です。
コガネムシ類幼虫対象として、更新作業時にダイアジノンSLゾルを処理します。
ヨトウ、ツトガ幼虫対象として、ラフの除草剤散布の時にブイボン乳剤を処理します。
使用量：ダイアジノンSLゾル 250倍　0.7～1L/㎡、ブイボン乳剤 2000倍 0.3～0.5L/㎡

グリーンメカ・メカプラス

芝生の貯蔵養分を補うために…

3月、4月は、休眠明けの植物が生長する時期です。
特に3月上旬の萌芽期は、一斉に芽出しさせることが重要です(生育のバラツキをなくす)。
休眠前に貯蔵しただけでは不足しがちな糖類、ミネラルをグリーンメカ、メカプラスを処理することによって、補っていきましょう。
使用量：5～10ml/㎡　1L/㎡以上

カラーマーカー®

除草剤散布のマーキングには…

(®は、当社商標)

春の除草剤散布の際、散布箇所確認用《カラーマーカー》にご使用下さい。
内袋は、水溶性フィルムを使用していますので、そのままタンク車に入れていただけます。
作業時に手や衣服を汚しませんが、作業にはゴム手で取扱い、タンク投入前に汗などでぬれるのも防止下さい。
使用量：1000Lに対し１袋(50ｇ)

マメ知識

土壌中の酸化還元電位について考えてみよう

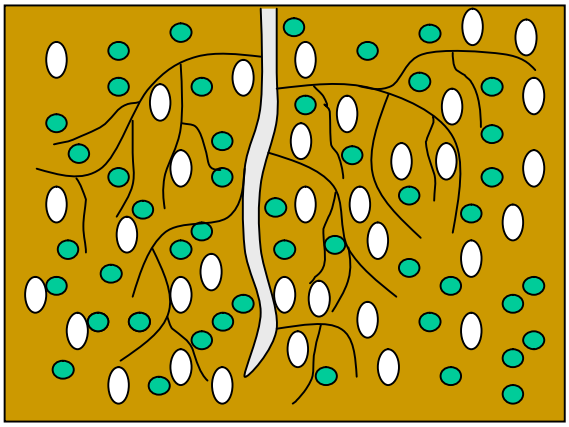
酸化還元電位(ORP:Oxidation Reduction Potential)は、土壌中が酸化に進んでいる状態なのか、還元に進んでいる状態なのかを判断するのに有効な測定値です。
つまり、測定値が高い場合は、酸化的な土壌で酸素が多く含まれますが、測定値が低い場合は、還元的な土壌で酸素が少ない土壌となります。

酸化還元電位(ORP)と植物の根の関係

土壌中が酸化状態なのか還元状態なのかによって植物の根の伸びる環境が変化します。

酸化状態

土壌中に酸素が多く含まれるので
酸化物質(酸素がくっついた物質)
が多い土壌となる。

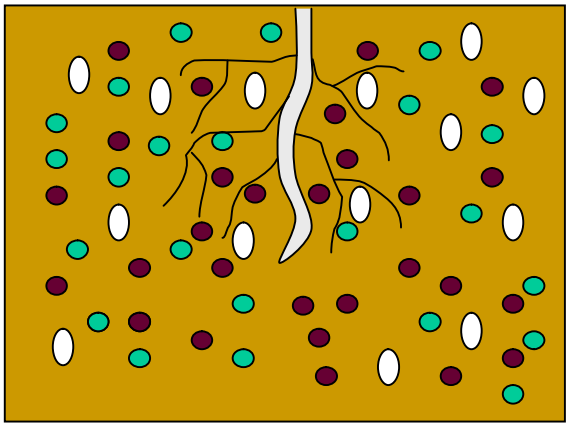


● 酸化物質
NO_3^-,NO_2^-,
SO_4^{2-},マンガン酸化物、
Fe酸化物etc

○ 空気

還元状態

土壌中の酸素が不足することにより
有機酸などの有害物質や還元物質が
多い土壌となる。



● 還元物質
N_2ガス、Mn^{2+}、S^{2-}、Fe^{2+} etc

土壌中が還元状態になる要因としては、サッチの堆積による通気性の欠乏や梅雨時期や大雨による土壌空隙の減少、有機物分解に伴なう微生物の呼吸量増加などが考えられます。